

令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立宮浦中学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	49.9	49.1	49.8	49.8	48.5	49.4
2年	前年度結果 偏差値平均	50.8	49.6	49.7	51.3	50.1	50.3
	本年度結果 偏差値平均	50.8	50.6	49.3	48.7	53	50.3
3年	前年度結果 偏差値平均	50.4	51.0	54.3	51.0	54.8	52.3
	本年度結果 偏差値平均	48.8	50.6	50.4	48.9	48.1	49.4
全体	前年度結果 偏差値平均	51.1	50.8	51.9	50.9	51.6	51.2
	本年度結果 偏差値平均	49.9	50.1	49.8	49.1	50.1	49.7

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	理科
前年度結果 (対県比)	73 (112)	64 (112)	/
本年度結果 (対県比)	68 (98.6)	55 (107)	50 (101.4)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、1・2年生の漢字・送り仮名の問題が全国比で-14～-15、3年生の「謙譲語と丁寧語」の問題が全国比-13であった。 ●社会では、各学年、知識に関して40%台の正答率の問題があった。 ●数学では、全学年、データの活用と図形の思判表に関わる問題に課題が多い。 ●理科では、1・3年が思考・判断・表現の問題で全国を下回った。 ●英語では、「話す」「聞く」の領域の正答率が、他領域と比較して低い。 ●学年が上がるにつれて、学習意欲が低くなってきている。 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、設問の半数の項目で、県・全国の正答率を上回っているが、「表現の技法について理解する」については、対県で-21.8%であった。 ●数学では、関数の問題で、全国比-3.8%であった。 ●理科では、「生命」を柱とする領域の問題の正答率が全国よりも-1.8%下回った。
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1学年は、三次支援が必要な生徒が全学級1～3人おり、全体として「かかわりの尺度」が低い傾向がある。 ●2学年は、学級満足度は比較的高い一方で、学級との関係に関する学校生活意欲が低い生徒が11人いる。 ●3学年は、三次支援が必要な生徒の割合が他学年と比べて多い(10.7%)。 	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1学年では、三次支援が必要な生徒が各クラス依然1～3人おり、「かかわりの尺度」も低い。二次支援が20.2%から25.6%に、三次支援が5.3%から7.0%に増加している。 ●2学年は、学級との関係に関する学校生活意欲が低い生徒は9人に減少したが、リレーションの度合いが前回よりも下がっている学級も見られる。 ●3学年は、三次支援の生徒の割合が5.8%となり、前回のほぼ半分になった。

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月ブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介していただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>【国】各マイナスポイントを半減する。 【社】知識及び技能で全国平均を超える。 【数】定期試験で、思判表の点数を半分以上取れる生徒を増やす。 【理】全学年全国平均を超える。 【英】各領域で、今回の結果を超える。 全教科で、問いを工夫・精選し、意欲的に授業に参加できるようにする。</p>	<p>【国】各学年、表現活動で「文章の構成」「用いる言葉の種類」「表現の技法」の指導を行う。 【社】記述的知識、分析的知識を授業毎に意識し定着を図る。単元に1回小テストを行い定期試験に取り入れる。 【数】図形の単元では具体物を使用して説明し、関数の単元では変化の割合について重点をおいて指導する。単元に2～3回の小テストやドリルを行う。 【理】身近な題材で興味を高めながら単元終了ごとに問題演習を行い知識の定着を図り思・判・表につなげる。 【英】週1で聞き取り・小テストを行い、聞く力を高める。</p>	<p>通年</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点+1以上) 【国】定期試験の正答率50%以上 【社】【数】定期試験で前回以上 【理】1・2年の冬実力試験で全ての領域で全国以上 【英】定期試験の聞き取り問題の正答率70%以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○1学年全学級において、学習ルール、環境整備を徹底し、生徒同士がかかわりを持てる機会を作る。 ○2学年全学級において、多様な視点で認め合える機会を作る。 ○3学年全学級は、学級や進路への不安を減らす。</p>	<p>①QUIによる、個人の課題の把握、学年職員との共有。 ②全学級における、定期的な面談、個人の課題に応じた支援の確認、保護者連携。 ③特別支援委員会等による、効果的な関わり方の検討、共有。 ④SSR、SC、SSW担当等による理論研修。 ⑤効果的な実践事例の共有。 ⑥日常的な、丁寧な対応と、細やかな配慮。</p>	<p>①6月 ②通年 ③通年 ④6月・8月 ⑤2月 ⑥通年</p>	<p>・QU2回目の調査での、全体の三次支援の生徒の割合減少(5%以下)</p>

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

<p>【今年度の成果と次年度にむけた改善点】</p> <p>○毎時間的小テストや復習を継続することで中間層以上の生徒には効果があった。生徒自身も力がついてきた実感を持ったり、家庭で小テスト対策をする生徒がみられようになるなど、全体の学習意欲が+0.1、三次支援が5%以下となった。</p> <p>●全教科で、生徒の学力差が大きくなっており、個別の支援が必要である。学習習慣の定着や小テストの活用の仕方について、全職員で共有し、実行する必要がある。</p> <p>●三次支援を5%以下に抑えるため、生徒を焦点化して具体的な対策を講じていく。</p>

学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
新2年	目標値						
	偏差値平均	50.5	50.0	53.0	50.0	50.5	50.8
新3年	目標値						
	偏差値平均	51.5	51.0	53.0	50.0	53.5	51.8

全国学力・学習状況調査 正答率

教科	国語	数学	英語
目標値 (対県比)	70 (105)	55 (107)	60 (105)